

2023年度

科目名称	スポーツ障害理学療法学
授業コード	BG385
英語名称	
学期	2023年度後期
単位	2.0
担当教員	村上 憲治 (医療科学部), 小泉 圭介 (医療科学部), 小田 桂吾 (医療科学部)
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	臨床の現場で長年理学療法士として従事してきた教員が、その経験を活かして、スポーツが原因で生じる障害(外傷・障害)について理解するとともに、スポーツ障害に対する理学療法評価および治療方法について理解するよう講義する。
科目に関連する実務経験と授業への活用	理学療法士(認定スポーツ理学療法)および日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー、博士(スポーツ医学)の免許・資格および学位を有する教員が、スポーツ現場での経験を基に各種スポーツ傷害に対するリハビリテーションプログラムを実技を交えて実践的に講義する。
到達目標	本学のディプロマ・ポリシーに掲げる理学療法士として業務を行う上で必要な専門的な評価法・治療法を修得し、問題解決能力を培って実践できる。 本科目では以下を到達目標とする。 1.スポーツ傷害について理解する。 2.スポーツ傷害の発症メカニズムについて理解する。 3.スポーツ傷害に対する評価と理学療法について理解する。
計画・内容	第1回 : スポーツ傷害の評価および理学療法の考え方について 担当教員: 村上_博士(スポーツ医学)・認定スポーツ理学療法士、JSPO-AT 第2回 : スポーツ傷害の評価および理学療法の考え方について 担当教員: 村上_博士(スポーツ医学)・認定スポーツ理学療法士、JSPO-AT 第3回 : スポーツ傷害の評価および理学療法の考え方について 担当教員: 村上_博士(スポーツ医学)・認定スポーツ理学療法士、JSPO-AT 第4回 : 体幹のスポーツ傷害の評価と理学療法 担当教員: 村上_博士(スポーツ医学)・認定スポーツ理学療法士、JSPO-AT 第5回 : 体幹のスポーツ傷害の評価と理学療法 担当教員: 村上_博士(スポーツ医学)・認定スポーツ理学療法士、JSPO-AT 第6回 : 肩関節のスポーツ傷害の評価と理学療法 担当教員: 村上_博士(スポーツ医学)・認定スポーツ理学療法士、JSPO-AT 第7回 : 肩関節のスポーツ傷害の評価と理学療法 担当教員: 村上_博士(スポーツ医学)・認定スポーツ理学療法士、JSPO-AT 第8回 : 股関節・大腿部のスポーツ傷害の評価と理学療法 担当教員: 村上_博士(スポーツ医学)・認定スポーツ理学療法士、JSPO-AT 第9回 : 膝関節のスポーツ傷害の評価と理学療法 担当教員: 村上_博士(スポーツ医学)・認定スポーツ理学療法士、JSPO-AT 第10回: 膝関節のスポーツ傷害の評価と理学療法 担当教員: 村上_博士(スポーツ医学)・認定スポーツ理学療法士、JSPO-AT 第11回: 足部・足関節のスポーツ傷害の評価と理学療法

2023年度

<p>計画・内容</p>	<p>担当教員：村上_博士（スポーツ医学）・認定スポーツ理学療法士、JSPO-AT</p> <p>第12回：足部・足関節のスポーツ傷害の評価と理学療法 担当教員：村上_博士（スポーツ医学）・認定スポーツ理学療法士、JSPO-AT</p> <p>第13回：スポーツ現場でおこなうスポーツ傷害に対する対応（実技） 担当教員：小泉_修士（スポーツ科学）・認定スポーツ理学療法士、JSPO-AT 小田_博士（スポーツ医学）・認定スポーツ理学療法士、JSPO-AT 村上_博士（スポーツ医学）・認定スポーツ理学療法士、JSPO-AT</p> <p>第14回：スポーツ現場でおこなうスポーツ傷害に対する対応（実技） 担当教員：小泉_修士（スポーツ科学）・認定スポーツ理学療法士、JSPO-AT 小田_博士（スポーツ医学）・認定スポーツ理学療法士、JSPO-AT 村上_博士（スポーツ医学）・認定スポーツ理学療法士、JSPO-AT</p> <p>第15回：理解度確認</p>
<p>授業の進め方</p>	<p>【授業の進め方】 POWER POINT等で資料を提示し座学にて知識面の整理をおこない、実技要素も多く取り入れ技術面の習得もおこなう。</p> <p>* 授業の進行状況により適宜授業構成を構築する</p>
<p>能動的な学びの実施</p>	<p>グループワークやディスカッションも取り入れ、さらに実践的な実技をおこなうため積極的な授業態度が期待される。</p>
<p>授業時間外の学修</p>	<p>【授業時間外の学習(合計60時間程度)】 予習:次回授業内容に関して基本的な理解を得ておく。指示がある場合には従う。 復習:不明点を明確にしておく。実技の練習を実施する。</p>
<p>教科書・参考書</p>	<p>【教科書】 指定なし</p> <p>【参考書】 *スポーツ理学療法学－競技動作と治療アプローチ、 *スポーツ理学療法プラクティス急性期治療とその技法、 *スポーツ理学療法プラクティス－機能評価診断とその技法</p> <p>* 適宜指示する</p>
<p>成績評価方法と基準</p>	<p>定期試験 50%、理解度確認 50%を基準に出席状況、授業態度（出席状況）を総合的に評価する なお、授業回に理解度確認を実施した場合はそれも評価に含まれる</p>
<p>課題等に対するフィードバック</p>	<p>* 授業回に理解度確認をを実施した場合、次回授業内に解説・フィードバックを行う。 * 学生の発言・発表の都度、コメントを行う。 * レポート課題実施の場合、コメントを付与して返却する。</p>
<p>オフィスアワー</p>	<p>CampusSquareを参照</p>
<p>留意事項</p>	<p>実技実習の授業時は動きやすい服装(ケーシー)を着用すること。</p>
<p>非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」</p>	<p>授業の進め方 ・ zoomによる授業に切り替える（課題学修と組み合わせる場合がある）</p> <p>成績評価 ・ 定期試験成績と授業ごとに実施する理解度確認成績、および出席状況を総合的に評価する（課題提出状況も含む場合がある）</p>